

科学技術政策大綱の策定経緯

これまでの科学技術政策大綱の経緯等

県は、1990年(平成2年)に全国に先駆けて「科学技術政策大綱」を策定(6回策定)
科学技術政策の当事者としてコーディネート機能を発揮しながら科学技術政策を推進

第1期(平成3～8年)推進体制整備等 県試験研究機関等の充実強化

第2期(平成9～13年)コーディネート機能の充実等

第3期(平成14～18年)県試験研究機関等の充実強化等

第4期(平成19～23年)知に着目した活動強化等(知的財産戦略を反映)

第5期(平成24～28年)重点研究分野の明記等

第6期(平成29～令和4年)県試験研究機関の活動充実、
(地独)神奈川県立産業技術総合研究所(KISTEC)設立



- ・ 「かながわサイエンスパーク」等、科学技術イノベーション活動を推進する拠点整備
- ・ **県試験研究機関、KISTECを中心に「公(おおやけ)」のビジョンを大切にする産学公連携を推進**
(第5期以降)
- ・ 「ヘルスケア・ニューフロンティア」や「さがみロボット産業特区」等、分野横断的な取組
- ・ 殿町や湘南ヘルスイノベーションパークでの異分野融合でのオープンイノベーション推進

科学技術政策大綱の策定スケジュール(令和4年度)

令和4年2月常任委員会資料(科学技術会議資料/室懸案事項調書)

- 1 令和4年5月27日 第43回神奈川県科学技術会議において新たな「大綱」骨子案(第1章から第3章)について意見聴取
※会議では骨子案全文を示し意見を聴取。その後室内議論し、適宜反映。
- 2 7月 第2回県議会定例会に新たな「大綱」骨子案を報告
※常任委員会には、**骨子案の概要等を常任委員会報告資料に示し、骨子案全文は参考資料で配布**
(県民意見募集前のプロセスで必要)。
- 3 7月中旬～8月中旬 新たな「大綱」骨子案について県民意見募集等を実施
※県民意見は主な施策等の記載の際に、主に参考で反映する
8月 第44回神奈川県科学技術会議で「大綱」素案の意見聴取
9月 第3回県議会定例会に「大綱」素案を報告
- 4 12月 第3回県議会定例会に「大綱」の議案を提出

第7期科学技術政策大綱の骨子案の策定趣旨(はじめに)

**社会と科学技術が対話しながら課題の解決に挑戦！
持続可能な未来社会を切り開く！**

1

科学技術は、**人が、地球と共に生きながら、人の文化を大切にして社会生活をしていく営みの根幹で、生活や環境及び文化に豊かさをもたらすもの。**新産業の創出など経済の発展を促しながら、地球環境問題や健康・福祉など、**人類の直面する多様な課題の克服に貢献**

2

社会の持続的発展のため、**未来への投資(研究推進・人材育成等)**を行うとともに、生み出された**新たな科学技術を実際の地域社会において社会実装し、県民の生活に届けていくこと**が求められる

3

科学技術イノベーションは、現状の課題から将来の潜在的ニーズを推察することや、科学技術の進展を踏まえた**創造力ある社会創り**など、**科学技術を推進する側と科学技術を活用する側(社会)の双方にとって大切で双方の対話が必要・重要**

第7期科学技術政策大綱の骨子案のポイント

はじめに

序章 神奈川の科学技術を取り巻く状況

- 1 神奈川の地域の特徴
- 2 課題先進地域・神奈川
- 3 神奈川県近年の科学技術の取組
- 4 人・社会・未来に応える科学技術の重要性

第1章 基本目標及び計画期間

- 1 基本目標
- 2 計画期間

第2章 県の役割と施策の基本的な方向

- 1 県の役割
 - (1) 地域活力の形成と地域社会への貢献
 - (2) 国内外との交流・連携・展開
- 2 施策の基本的な方向
 - (1) 安全・安心な生活・環境を実現する科学技術活動の展開
 - (2) 基幹産業の創出・育成を実現する科学技術活動の展開
 - (3) イノベーション人材が輝く共創の場を実現する科学技術活動の展開

第3章 県試験研究機関等の活動の方向性

- 1 重点的な研究活動の展開
 - (1) 基本原則
 - (2) 重点研究目標
- 2 各機関の活動の方向性
 - (1) 県試験研究機関の活動
 - (2) 地方独立行政法人等の活動
 - (3) 神奈川県による大学・企業等との連携・協働の活動

- ① 大綱では神奈川らしさを示すことが重要。
その意味で序章の記載がポイント
- ② 基本目標は、生活・環境、経済活性、人材育成・共創の場、の3つ(過去不動)
- ③ 地域に根を張る活動を展開しながら、グローバル展開の必要性を明記
- ④ 施策の基本的な方向では以下を新設
 - ・新たな技術・サービスの実証フィールド
 - ・サイエンスパーク等のイノベーション拠点
 - ・知と人が集い育つ「共創の場」の形成
- ⑤ 重点研究は、
 - (1) 安全・安心な生活・環境の実現
(防災・減災・防疫、環境対策技術、食関係技術、介護・福祉、AI/IoT等)
 - (2) 基幹産業の創出・育成
(最先端医療、ヘルスケア・未病、ロボット、エネルギー等)
- ⑥ 県試・地独法と連携しながら神奈川県が大学・企業等のコーディネート役を果たす

序章 神奈川の科学技術を取り巻く状況

※第42回科学技術会議の意見(神奈川らしさ、科学技術の取組実績)などを踏まえ記載

背景
1

神奈川の地域の特徴

- ・くらしやすさ(豊かな自然と都市の調和)と**進取の精神(文明開化)に富む県民性**
- ・知的資源の充実(全国3位内、**宇宙・海洋関係機関**)、活発な産業活動
- ・科学技術振興の取組の蓄積(1978年頭脳センター構想、30年以上の実績) 等

背景
2

課題先進地域・神奈川

- ・生活ニーズの多様化・複雑化、地球環境・エネルギー問題 等
- ・**少子化、高齢化と人口減少(2021年減少に転じる、超高齢化のスピードが早い)**
- ・京浜臨海部を中心に、産業構造は「知」を重視した知識集約型・技術集約型へ
- ・科学技術基盤(人材、コミュニケーション、リスクや失敗を受容する風土)の形成へ

背景
3

神奈川県の中身の科学技術の取組

- ・地域ニーズを踏まえた研究開発を推進、特区を活用した研究開発や実用化支援
- ・「ヘルスケア・ニューフロンティア」、「神奈川スマートエネルギー計画」、「さがみロボット産業特区」
- ・**オープンイノベーション活動を推進する中核拠点(殿町・湘南)の整備と取組**
- ・**感染症対策の先駆的研究や横浜国立大学・県立保健福祉大学等との連携強化** 等

背景
4

人・社会・未来に応える科学技術の重要性

- ・激動の社会変革の時代(日本型社会システムの要変革)
- ・自然災害や感染症等の脅威、環境問題等への科学的課題解決・アプローチが重要
- ・自律性高く経済・生活・自然がしなやかに調和・躍動する地域へのシパシの高まり
- ・**新たな価値創造のイノベーション推進、人文科学の視点も入れた総合的取組。**

⇒技術導入だけでなく、科学技術を自ら生み育て、科学技術を活用した新たな社会創りが急務

大綱の基本目標と計画期間

科学技術イノベーションを推進しその成果の社会実装で、「豊かな未来社会づくり」ひいては「いのち輝くマグネット神奈川」を実現することを目指して3つの基本目標

目標1

安全・安心な生活・環境を県民が実感できる地域社会の実現

少子化と高齢化が進み、社会活動が複雑化する中で価値観が多様化し、誰も取り残さない各人の多様な幸せ（ウェルビーイング）を実現できる社会が求められています。このためには、年々増加する自然災害への防災・減災や感染症の防疫などに加え、多様な視点から見た安全・安心の確保が必要です。

そこで、科学的アプローチに基づく課題解決により、安全・安心な生活・環境を県民が実感できる地域社会の実現を目指します。

目標2

持続可能性を備えた基幹産業の創出・育成による地域経済活性化

過去には経済活動の成長が生活や環境の悪化を引き起こす事象もあり、相反するものとして規制により律した時代もありましたが、これからは、SDGsの理念に謳われるように、経済活動は持続可能な生活・環境との調和の中でグローバルに成長していくことが必要です。

そこで、生活や環境面との調和を、コスト負担ではなく潜在的成長ニーズとして捉える中で、日本の国際競争力強化に繋がる基幹産業の創出（新産業創出）や育成（既存産業の高度化も含む）を進め、地域経済の活性化を目指します。

目標3

課題解決と未来創成に挑戦するイノベーション人材が輝く共創の場の形成

大きな時代変革期を迎える中で、科学技術を基軸にした課題解決と未来創生が、これまでになく強く求められる時代です。

そこで、失敗を恐れず挑戦し続ける「人」を評価し、失敗を許容し、再挑戦を促すことができる環境の整備と、社会文化の形成を目指します。また、理工系に加えて人文科学も含む「科学技術の推進・活用・社会創りの俯瞰的な視点＝総合知」を大切にし、科学技術力を結集・活用しイノベーションを起こしていくことのできる人材が輝く共創の場の形成を目指します。

計画期間 2023(令和5)年度～2026(令和8)年度(4年間)

第2章 県の役割と施策の基本的な方向

1 県の役割

※「地域科学技術振興」の「地域」の捉え方に留意した記載

(1) 地域活力の形成と地域社会への貢献

ア 「科学技術」と「生活・環境」との間を繋ぐ

多様化する将来の潜在的な社会ニーズを、現場の視点から捉えていく努力を常にしながら、産学公連携活動を推進して地域社会に展開

イ 「科学技術」と「市場・産業」との間を繋ぐ

サイエンスパーク等の拠点を中心に、大学・企業等の様々な活動主体が組織・分野の枠を超えた異分野融合の取組と社会実装を促進

ウ 「科学技術」と「人・社会」との間を繋ぐ

非競争領域における「多様な人材・知・技術を呼び込む・育成する共創の場」と人材育成。大学等・企業や社会等と科学技術を活用する総合的施策展開。

(2) 国内外との連携・交流・展開

科学技術イノベーションにより、探求心から生まれる新たな「知（サイエンス）」、その社会実用性を高め具体化された「技術（テクノロジー）」、「新たな知や技術等を社会で実証していく結果（エビデンス）」は、**普遍性の高い国内及び世界に共有性の高い公共的科学資産**

神奈川からの独創性を持った取組としての地域の強みであり、また、昨今の多様化する社会的課題への解決への強力な手段

科学技術イノベーション活動は、**地域社会に立脚し地域社会に貢献し、国内外との連携・交流・展開を図る、という複眼的な視点**

※「基本目標3つ」に繋いでいく県の役割を記載

2 施策の基本的な方向性

1

安全・安心な生活・環境を実現する科学技術活動の展開

- ア 健康長寿社会の実現に寄与する科学技術活動の展開
- イ 自然災害等へ対応する研究・モニタリング活動の推進
- ウ 自然・生活環境の保全など県民生活につながる活動の推進

エ 生活・環境へ貢献する新たな技術・サービスの実証フィールド

2

基幹産業の創出・育成を実現する科学技術活動の展開

- ア 知的創造活動の展開と産学公連携による共同研究の推進
- イ 中小企業支援などによる研究成果の産業への活用
- ウ 市場展開を見据えた産業支援
- エ 成長産業の創出・育成支援に向けた研究活動等の展開

オ サイエンスパーク等のイノベーション拠点の活動

3

イノベーション人材が輝く共創の場を実現する科学技術活動の展開

- ア イノベーションを生み出す人材の育成
- イ 子どもたちの科学技術に対する興味・関心の喚起
- ウ 科学技術に係る活動等の情報発信と**科学技術と社会の対話**

エ 関係者がビジョン・課題を共有し、共に取り組む共創の場の形成

第3章 県試験研究機関等の活動の方向性

1 重点的な研究活動の展開

(1) 基本原則

ア 社会課題に沿った研究

より効果的に科学技術の成果を生み出し活用していくために、選択と集中の観点で踏まえ、**社会課題と合致**するかという視点から研究を推進

イ 顕在的・潜在的ニーズを意識した産学公連携活動

産業や県民生活及び現場の視点や**時間軸**を大切に、**顕在的・潜在的ニーズ**を意識した研究を推進

SDGsに貢献していくことを強く意識した「**バックキャスト方式**（明確な目標設定にあわせた共同研究チームの組成と推進）」での産学公連携プロジェクトも推進

(2) 重点研究分野

目標1 安全・安心な生活・環境の実現

防災・減災・防疫、環境技術、食関係技術、介護・福祉、AI/IoT 等

目標2 基幹産業の創出・育成

最先端医療、ヘルスケア・未病、ロボット、エネルギー 等

2 各機関の活動の方向性

1 県試験研究機関の活動

- ・ 研究職員の育成に取り組む、シーズ探求型の研究を実施すること等で、研究機能を強化
- ・ 地域ニーズを踏まえ、生活環境の安全確保や農産物などの品種開発など、地域課題の解決に向けた研究やモニタリング等を実施
- ・ **大学や企業と連携して課題解決力の向上、幅広い分野への成果展開の強化**
- ・ 県民に開かれた機関として、継続的な情報発信や情報共有を行い、県民生活の質の向上や産業の振興に貢献

2 地方独立行政法人等の活動

- ・ 神奈川県立産業技術総合研究所（**大学等の有望シーズを地域で育成して展開等**）
- ・ 神奈川県立保健福祉大学（**ヘルスイノベーションスクール、データ解析・コホート・実証フィールド等**）
- ・ 神奈川県立病院機構（高度・専門医療、地域医療の担い手、**がんセンター臨床研究所**）

3 神奈川県による大学・企業等との連携・協働の活動

- ・ **県職員が、神奈川のフィールドを預かる「公(おおやけ)」のコーディネート機能を発揮**
- ・ 組織や分野の枠を超えていく異分野融合プロジェクトの立案・推進
- ・ 県内で新技術・新サービス等をいち早く実証できるよう、アカデミアと連携しながらその結果の評価・公表等の実施
- ・ 科学技術の成果や知見を活用していくことや社会につなげていく活動を強化
- ・ **横浜国立大学**をはじめとする地域大学等が自治体と連携・協働して地域貢献活動を強化

※赤字の個所が、今回の大綱で特に強調していきたい方向性